

## 「ココクール マザーレイク・セレクション2014」

### に選ばれた商品・サービス

#### 1. 株式会社ニシザキの高島ちぢみ<sup>®</sup>を使用したベビー商品「cocone(ここね)」



独特のシボ(しわ)で知られる高島ちぢみ<sup>®</sup>を赤ちゃんのためにふんわり柔らかく仕上げたベビー商品。滋賀を表す「湖国」と「眠り」を合わせて「cocone(ここね)」と名付けられた。生地は滋賀の自然(琵琶湖、シャクナゲ、ヨシ)をイメージした優しい色を先染めして織ったボーダー柄のデザインになっている。肌着としても愛用されてきた高島ちぢみ<sup>®</sup>は肌触りがよく、水分をよく吸い取るので汗かきの赤ちゃんにぴったり。

#### 2. 大湖産業(だいこさんぎょう)株式会社の自然素材のスクリーン

すだれの技術を応用し、自然の心地よさを届けるスクリーン。近江の麻をはじめ、ヨシ、木、竹、和紙など自然素材にこだわった商品バリエーションは多彩。麻とヨシを織りまぜた手織りのものもある。その場所に最適なスクリーンをオーダーで作ることもでき、住宅やホテル、レストラン等で使われるほか、JR九州の「800系新幹線」や「ななつぼし in 九州」の窓に採用されている。



#### 3. あゆの店きむらの鮎寿しスライスパック



天然のニゴロブナ(琵琶湖固有種)と近江米を使い、丁寧に加工し、塩漬け、本漬け(発酵)と1年以上かけて作られる鮎ずしを手頃に味わっていただくため開発された商品。パッケージが特徴的で、蛇腹状(じゃばらじょう)の網目はニゴロブナの鱗の形や桶に整然と漬けられたニゴロブナの様子を、持ち手はニゴロブナの尻尾をかたどっている。このパッケージは世界的なデザインパッケージコンペの「ペントアワード」で銀賞を受賞した。お土産としてもおすすめ。

#### 4. 市川農場の「近江豊郷の農家が育てたたまねぎドレッシング」

滋賀で一番小さい町、豊郷町の農家が育てた玉ねぎのみを使い、じっくり炒めた玉ねぎの甘味を最大限に引き出し、醤油と酸味が絶妙な、まるやかで甘味のあるドレッシング。生産者の顔の見える安心感からメディアや高級食材店での取り扱いが増え、玉ねぎ作りに地域の農家だけではなく、高齢者や定年退職者などいろいろな方が参加。農業の活性化や農家の生きがい作りにも一役買っている。



#### 5. せせらぎの郷の「月夜のゆりかご」



かつて、琵琶湖畔の田んぼは鮎寿しの材料として知られるニゴロブナなどの魚の産卵場所となっていた。魚のゆりかご水田は、田んぼと水路をつなぎ、その機能を復活させる農家の取り組み。ゆりかご水田でとれた、農薬も極力控えた環境こだわり米(コシヒカリ)を使った「月夜のゆりかご」は、やさしい口当たりが特徴のお酒になっている。

#### 6. 叶匠壽庵(かのうしょうじゅあん)の寿長生(すない)の郷

農工一体の菓子づくりを目指す叶匠壽庵が作った四季を体感できるお菓子の郷。豊かな自然に囲まれた敷地内には、和菓子の販売、食事処、茶室などがあり、おいしいものを食べながら、ゆったりと過ごすことができる。象徴である城州白梅(約千本)の開花に合わせ、毎年「梅まつり」を催しているほか、季節に応じた和菓子作り教室などのイベントを開催し、懐かしい日本の風景や四季の移ろいを感じながら、心休まるひと時を過ごせる。



#### 7. 滋味康月(じみこうげつ)



近江米や近江牛、近江の地酒、琵琶湖の幸、山のもの(イノシシ、シカ)、地元の野菜など、滋賀の優れた食材にこだわり創作的かつ本格的な和食を提供している。若い人にとって日本食の敷居が高くなってきているという思いから、若い人でも日本食を味わってもらえるようコースだけではなく、単品メニューも提供している。ランチの予約は2年待ちと言われるほどの人気店。

## 8. mamma mia (マンマミーア)

「文化の発電所」を作りたいとの思いから古い農業学校の木造校舎をリノベートしたカフェとギャラリーでパティシエと木工職人のコラボを実現している。「ALL PRODUCTS ARE MADE WITH RESPECT FOR “SATOYAMA”」をコンセプトとして、作るもの全てに甲賀の里山などの自然とそこに住む人々に対する敬意を宿らせることを最も大切なこととしてモノづくりを行っている。田舎の風景が一望できるロケーションで、時間を忘れてのんびり過ごせる。



## 9. MIHO MUSEUM



ルーブル美術館のガラスのピラミッドで知られる建築家 I.M.ペイ氏が、桃源郷の世界をモチーフに設計した美術館として海外のガイドブックに多数紹介され、海外からの訪問者が多い。周辺環境に溶け込んだ設計で自然光をふんだんに取り入れ、エントランスからは信楽の山並みを見ることができる。エジプトやアジア、中国などの古代美術を中心とした常設展示と年3回の特別展を行っている。

## 10. セトレ マリーナびわ湖

2013年11月にOPENした全14室のリゾートホテル。「琵琶湖との共生」をコンセプトに掲げ、滋賀県の木から作られた100台以上のオリジナル家具、信楽の土や琵琶湖のヨシを利用した土壁や、琵琶湖から吹き抜ける風を利用して建物全体が音を奏でる「ミュージックホール」、内湖をモチーフとしたガーデンなどが設けられている。館内すべての空間から琵琶湖の風景を楽しむことができ、近江牛、湖魚、野菜など、県内生産者との直接契約による厳選素材を用いたイタリア料理が好評を博している。

